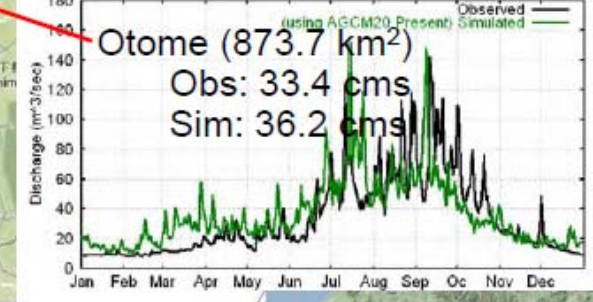
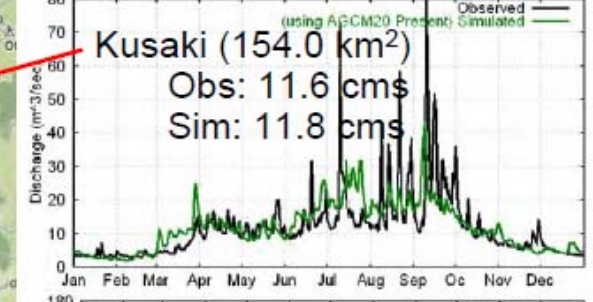
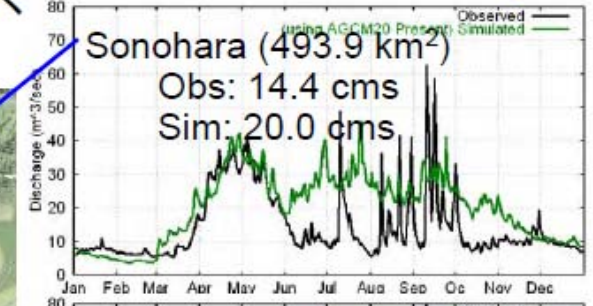
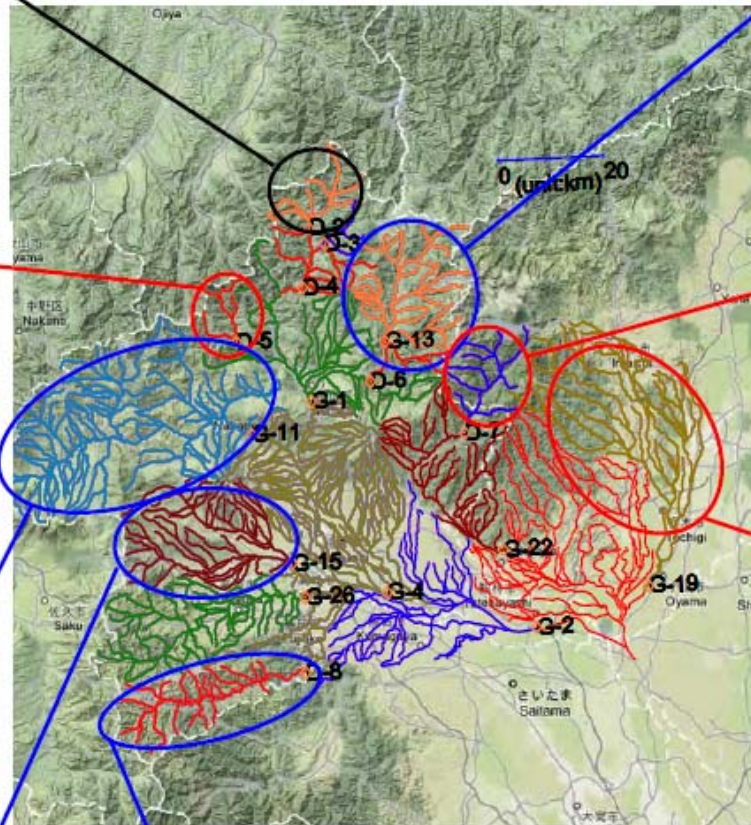
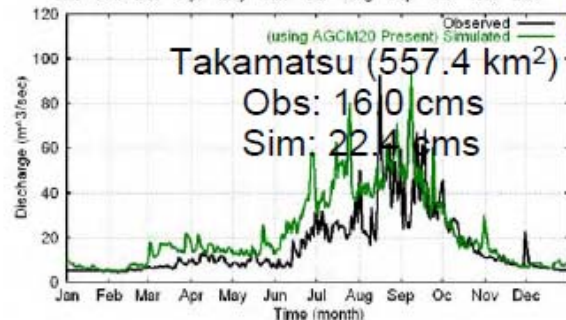
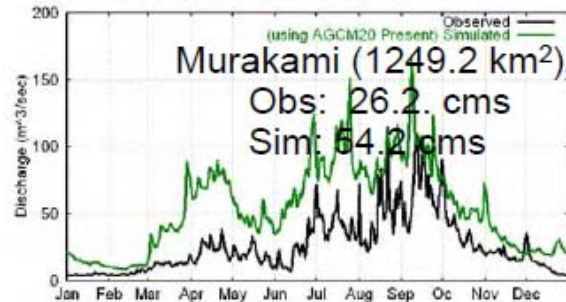
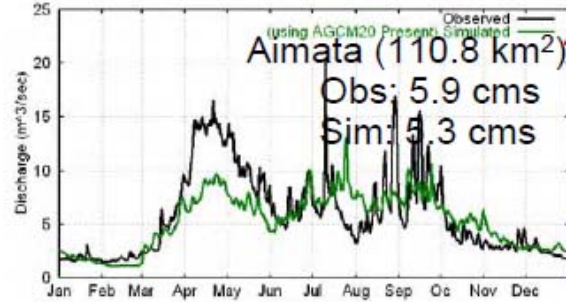
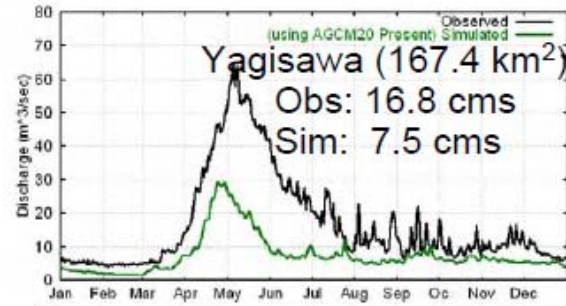
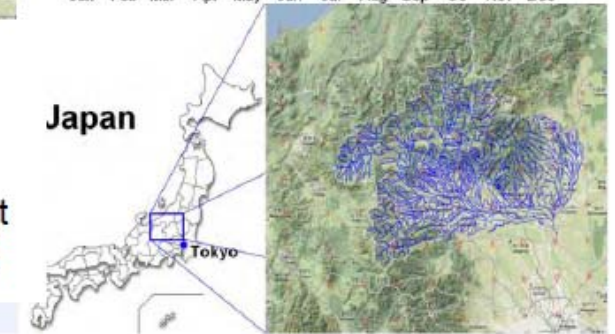


気象研モデル(全球20km格子)のモデル結果を用いた河川流量評価

* 金らの発表資料(2009年2月、横浜)に基づく

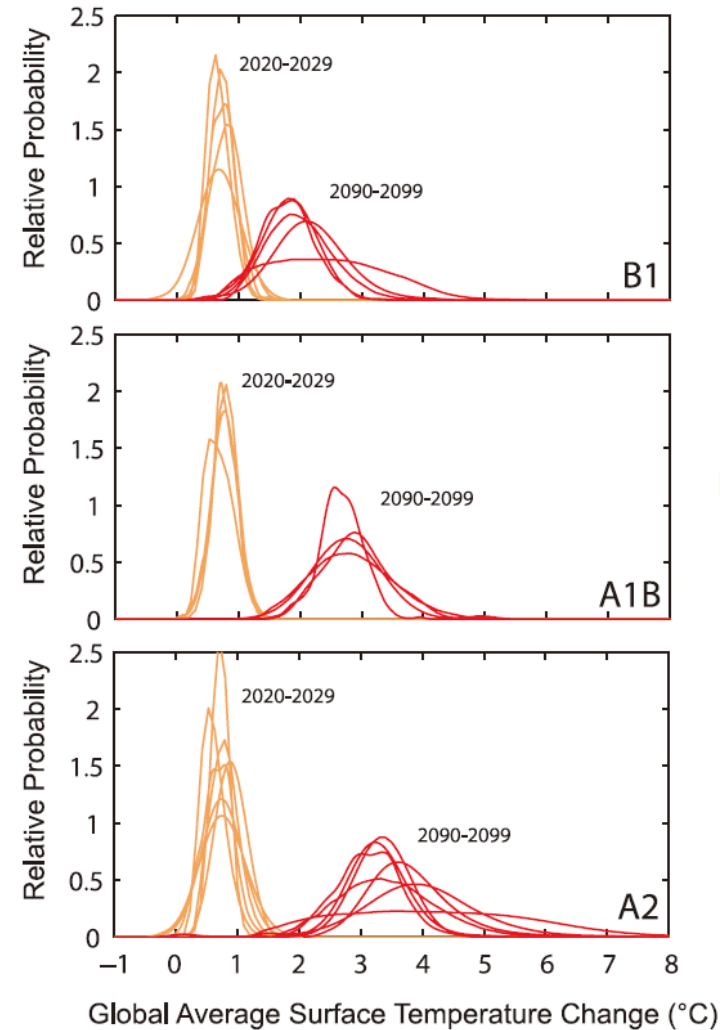


overest
underest
consent



確率論を取り入れた気候予測

- 異なる曲線は異なった手法による確率導出手法を表す。
- 用いられたモデルは、大気海洋結合モデルや簡略気候モデルなど、手法によって様々。
- 問題点
 - 10年規模予測について：
自然変動の位相が充分考慮されていない
-> 海洋データ同化導入
 - 100年規模予測について：
炭素循環など、生物地球化学過程の応答が十分考慮されていない
-> 生物地球化学的過程の導入



21世紀前半と終り近くにおける、
表面気温上昇予測の確率密度分布